

## 狛江市総合戦略（案）に対するパブリックコメント及び 市民説明会の実施結果について

### 1 パブリックコメントの実施概要

#### （１）実施期間

平成 28 年 1 月 15 日（金）から 2 月 15 日（月）まで

#### （２）公表方法

広報こまえ 1 月 15 日号、市ホームページ、政策室窓口

#### （３）意見の提出方法

政策室への書面による提出

郵送による送付

ファクシミリによる送信

電子メールによる送信

狛江市公式ホームページ専用フォームによる送信

#### （４）対象者

市内在住・在学・在勤の方及び市内に事業所等を有する方

### 2 市民説明会の実施概要

第 1 回：1 月 21 日（木）午後 7 時から 特別会議室

第 2 回：1 月 24 日（日）午前 10 時から 特別会議室

### 3 実施結果

意見提出 2 人

意見数 7 件

市民説明会参加者 第 1 回：3 人、第 2 回：1 人

意見の概要と意見に対する回答

		意見	回答
<p>全体的な意見</p> <p>「第2章 人口動向の特性と課題」に関する意見</p>	1	<p>今回の「総合計画（案）」では、「まち・ひと・しごと創生」の内、「しごと創生」項目が除外されている。現在の「人口減少・労働力不足」社会の下で労働人口を確保し、かつ出生率を上げるには、母親が「働くこと」と「子育てすること」を両立させられる環境が必須となり、子育て環境の充実だけではなく、近場の狛江市内に働く場（雇用）を確保することが必須となる。</p>	<p>企業が少なく、都心に近いといった狛江市の特性を踏まえ、市内で雇用の創出に取り組むことは盛り込んでおりませんが、ご指摘のように、子育て支援の観点から「テレワーク」などの在宅就業の支援に努めてまいります。</p>
	2	<p>「1.人口動向の特性」で、「平成25（2013）年、平成26（2014）年は、大型マンション建設などの影響もあり、大幅な転入超過となっています。」とあり、市の人口統計予測に反し増加している。今後5年間という中期的な戦略であるならば、もう少し人口が増加した分析等を行い、その結果を戦略にいかすべき。狛江市総合戦略（案）では人口動向の特性と、人口対策としての今後の課題が全くリンクしていない。特性と動向を把握したならば、それに対する課題・戦略を入れていただきたい。</p>	<p>全国的に人口減少社会への対応が求められていますが、狛江市の人口は増加傾向にあります。そういった独自性を踏まえ、本文での表現を再度見直します。</p>
	3	<p>「2.人口対策としての今後の課題」では、各項目の最後の箇条書き以外は特性・現状であり、最後の部分のみで課題が挙げられている。いずれも課題がひとつだけということはないことから、もう少し具体的に複数の課題を抽出してもらいたい。また、特性・現状と課題を分けたほうが分かりやすいと思う。</p>	<p>現状には、課題も含まれており、それらを整理し、まとめた記述としております。</p>
	4	<p>「（1）少子化への対応」の課題として「待機児童の解消など子育て環境を充実させ、出生率の向上に取り組むことが極めて重要になります。」とある。これも必要だが、狛江市民の出生率が向上しても、数値的には微々たるものであり、少子化対応には至らない。子育て環境を充実させ、魅力あるまちとし、他地域から子育て世代が転入してくるまちになるよう取り組むことが重要だと考える。このため、子育て世代に選んでもらい、住んでもらう、他地域から呼び込む、という理念も入れてもらいたい。</p>	<p>今後は転入超過による人口増が期待できないと想定しています。また、転入・転出による人口の増減がゼロと仮定し、市の合計特殊出生率を段階的に上昇させたシミュレーションを行った結果、少子高齢化を食い止める効果が見込める結果となりました。このシミュレーションに基づき、「子育てしやすいまちづくり」を基本方針のひとつとして設定しました。</p>

	意見	回答
「第3章 総合戦略の基本的な考え方」に関する意見	5 7ページの「第3章総合戦略の基本的な考え方」の基本理念を「いつまでも住み続けるためのまちづくり」のみでなく、「住むために選んでもらえるまちづくり」という理念も加えてもらいたい。いつまでも住み続けるためのまちづくりはとても重要だが、絶対数を維持するだけでは、人口減少に歯止めはかからない。 新たな世代に選んでもらい、住んでもらえるまちになるようそういった理念も含んだ表記にしてもらいたい。	今後は転入超過による人口増が期待できないと想定しています。狛江市に長く住みたいと思えるまちづくりを推進していきたいと考えています。
	6 基本方針に「にぎわいのあるまちづくり」という意味合いの方針を入れていただきたい。元祖コンパクトシティを謳うのであれば、コンパクトシティの本来の意味である、機能の集約といった概念がなければおかし。狛江は自然も豊かで都内には数少ない緑地が残されているところも魅力である。一方で、大型店の出店等も少なくにぎわいの面ではまだ課題がある。こういった自然豊かな場所やにぎわいのある場所、または必要な機能を集約化、効果的に配置することがコンパクトシティの本来の目的・趣旨である。 新たな世代に選んでもらえるまちになるよう、まちのにぎわいも必要である。自然の環境もにぎわいの環境も両立した自治体が求められている。狛江にずっと住み続けている方からの意見も重要だが、新たに狛江に住み始めた方、住むことを検討している方の意見も重要であり、若い世代は狛江にもっとにぎわいがほしいと考えている人も沢山いる。ぜひともにぎわいのあるまちづくりの概念も基本方針に加えていただきたい。	狛江市は都心まで近いことや市域が狭いことなどの特性を踏まえて、市内における商業的なにぎわいよりも、住宅都市として安心・安全なまちの推進や子育て支援に重点を置いた戦略が必要であると考えています。
	7 1ページの「狛江市の地域戦略例」の中で、健康マイレージの創設等、新たな取組みも盛り込まれているので、本文の中でもう少し説明があった方が良い。	ご指摘のとおり冒頭の戦略例と本文で整合が取れるよう修正します。